

1. 製品及び会社情報

- (1) 製品名
- 糞便採取キット（ASM-TF02）
- (2) 使用用途
- 動物糞便採取（検査目的）（P R T R法非該当品）
- (3) 会社名
- アニコム先進医療研究所株式会社
- (4) 住所
- 東京都新宿区西新宿 8-17-1 住友不動産新宿グランドタワー39 階
- (5) 担当部門
- 微生物検査課
- (6) 電話番号
- 03-5925-6955
- (7) F A X 番号
- 03-5926-6954

2. 危険有害性の要約

- (1) G H S 分類
- 健康に対する有害性
- 急性毒性（経口）
- 区分外
- 眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性
- 区分 2B
- 発がん性
- 区分 1A
- 生殖毒性
- 区分 1A
- ※記述のない G H S 分類は「分類対象外」または「分類できない」である。

- (2) G H S ラベル要素
- ①絵表示またはシンボル



- ②注意喚起語
- 危険
- ③危険有害性
- 発がんのおそれ、生殖能又は胎児への悪影響のおそれ、長期にわたる又は反復ばく露による肝臓障害のおそれ、長期にわたる又は反復ばく露による中枢神経系障害のおそれ、全身毒性の障害のおそれ。
- ④注意書き安全対策
- 使用前に注意書きをよく理解して取り扱うこと。  
飲食または喫煙をしながらこの製品を使用しないこと、  
ミストや蒸気を吸入しないこと、必要に応じて個人用保護具を着用すること、取扱い後はよく手を洗うこと、  
容器は密閉しておくこと。
- ⑤応急処置
- 眼に入った場合は水で数分間注意深く洗うこと、次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、その後も洗浄を続けること、ばく露又はばく露の懸念がある場合は医師の診察／手当てを受けること、気分が悪いときは、医師の診察／手当てを受けること、眼の刺激が続く場合は医師の診察／手当てを受けること。
- ⑥保管
- 保管には施設でできる冷暗所で保管すること。
- ⑦廃棄
- 廃棄方法は政令で定める技術上の基準に従い、各規制値内であることを確認して廃棄すること。

4. 応急処置

- (1) 目に入った場合
- 清浄な水で 15 分位洗眼し直ちに眼科医の手当てを受けること。  
（コンタクトレンズは直ちに外す）
- (2) 皮膚に付着した場合
- 付着した衣類等を脱ぎ、水又は微温湯で洗浄すること。
- (3) 飲み込んだ場合
- 意識がある場合は大量の水を飲ませて吐かせ、医師の手当てを受けること。意識が無い場合は、患者に無理に吐かせようとせず、直ちに医師の手当てを受けること。

5. 火災時の措置

- (1) 消火剤
- 該当なし。
- (2) 特有の危険有害性
- 本品は消防法では非危険物であり、火災・爆発などの恐れはない。
- (3) 特定の消火方法、注意点
- 危険でなければ火災区域から容器を移動すること。  
出来る限り流出物が配水管又は水路に入るのを防ぐこと。  
消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用防護衣を着用すること。
- (4) 消火作業者の保護

6. 漏出時の措置

- (1) 人体に対する注意事項
- 作業の際には保護具（ゴム手袋、マスク・眼鏡等）を着用すること。
- (2) 環境に対する注意事項
- 河川等に直接排出されないようにするなど、環境へ影響を起こさせないように注意すること。
- (3) 浄化の方法
- 漏出した場合はウエス等で注意して清拭回収すること。  
漏出箇所に残留物がないように廃棄処理を行うこと。

7. 取扱い及び保管上の注意

- (1) 取扱い技術的対策
- 試液が眼、口腔粘膜、皮膚、衣服に触れないように注意すること。
- (2) 安全取扱注意事項
- 容器を転倒・落下等、衝撃を与えないよう、取り扱いをすること。直接触れたり、吸入したり、飲み込んだり、眼に入れないこと。取り扱い後、手をよく洗うこと。
- (3) 混触危険物質
- 酸、金属、爆薬、有機過酸化化物などからは離しておくこと。
- (4) 保管条件
- 直射日光を避け、涼しい場所に保管すること。  
雨水がかからず、換気が良い場所に保管すること。  
容器の破損に備え、酸、有機過酸化化物等と隔離しておくことが望ましい。

8. 暴露防止措置

- (1) 管理濃度
- 設定されていない。
- (2) 許容濃度
- 日本産業衛生学会（91 年度版）；設定されていない。
- (3) 設備対策
- 粉塵が発生する場合は、局所排気装置を設定すること。  
貯蔵又は使用する場合、眼洗浄及び安全シャワーを設置が望ましい。

|                                                                         |  |                                                                                                                                                         |  |
|-------------------------------------------------------------------------|--|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 管理番号 SDS MW07001436                                                     |  | アニコム先進医療研究所株式会社                                                                                                                                         |  |
| (4) 保護具                                                                 |  | 保護衣、保護手袋、保護メガネ、保護長靴、防塵マスクなどを着用し、直接触れたり吸入したりしないようにすること。                                                                                                  |  |
| 9. 物理及び化学的性質                                                            |  |                                                                                                                                                         |  |
| (1) 外観等                                                                 |  | 無色透明液体                                                                                                                                                  |  |
| (2) p H                                                                 |  | 6.9 (原液)                                                                                                                                                |  |
| (3) 嵩比重                                                                 |  | 約 1                                                                                                                                                     |  |
| (4) 引火点                                                                 |  | データなし                                                                                                                                                   |  |
| 10. 安定性及び反応性                                                            |  |                                                                                                                                                         |  |
| (1) 安定性                                                                 |  | 通常の取り扱い条件においては安定。                                                                                                                                       |  |
| (2) 危険有害反応可能性                                                           |  | 可燃性・発火性・爆発性・水との反応性はない。                                                                                                                                  |  |
| 11. 有害性情報                                                               |  |                                                                                                                                                         |  |
| (1) 製品の有害情報                                                             |  | 実験では確認していないが、GHS 混合物分類判定システム（令和元年度版）にて危険性を推定した。                                                                                                         |  |
| (2) 成分の有害性情報                                                            |  |                                                                                                                                                         |  |
| ①エタノール                                                                  |  |                                                                                                                                                         |  |
| (i) 急性毒性                                                                |  | LD <sub>50</sub> （経口）： >6200mg/kg、LD <sub>50</sub> （経皮）： >20,000 mg/kg で区分外。                                                                            |  |
| (ii) 目刺激性                                                               |  | ウサギを用いた 2 つの Draize 試験（OECD TG 405）において、中等度の刺激性（区分 2B）                                                                                                  |  |
| (iii) 皮膚腐食性・刺激性                                                         |  | データ不足で分類不可。                                                                                                                                             |  |
| (iv) 生殖細胞変異原性                                                           |  | データ不足で分類不可。                                                                                                                                             |  |
| (v) 発がん源性                                                               |  | 区分 1A に分類。                                                                                                                                              |  |
| (vi) 生殖毒性                                                               |  | 区分 1A に分類。                                                                                                                                              |  |
| ②アジ化ナトリウム                                                               |  |                                                                                                                                                         |  |
| (i) 急性毒性                                                                |  | LD <sub>50</sub> （経口）： 27mg/kg (区分 1)。LD <sub>50</sub> （経皮投与）： 20mg/kg (区分 1)                                                                           |  |
| (ii) 皮膚腐食性・刺激性                                                          |  | ウサギの試験にて 4 時間後に腐食性を示した。（DFGOT vol.20 (2003)）(区分 1)                                                                                                      |  |
| (iii) 生殖細胞変異原性                                                          |  | in vivo 試験のデータがなく分類できない。なお、in vitro 変異原性試験では、微生物復帰変異試験で陽性の結果（ACGIH (2001)）。強い変異原性は微生物に特有のものとみなされている（DFGOT vol.20 (2003)）。区分外 [ACGIH-TLV (2005)]。分類できない。 |  |
| (iv) 発がん源性                                                              |  |                                                                                                                                                         |  |
| (v) 生殖毒性                                                                |  |                                                                                                                                                         |  |
| ③塩化アンモニウム                                                               |  |                                                                                                                                                         |  |
| (i) 急性毒性                                                                |  | ラットの LD <sub>50</sub> =1650 mg/kg (ACGIH (2001)) 区分 4 に相当。                                                                                              |  |
| (ii) 皮膚腐食性・刺激性                                                          |  | ウサギの試験にて 48 及び 72 時間後の紅斑、浮腫及び痂皮のスコアは全ての動物において 0 で区分外。                                                                                                   |  |
| (iii) 目刺激性                                                              |  | ウサギを用いた試験で軽度 (mild) の刺激性との記述あり。[ACGIH (7th, 2001)] 眼刺激 (区分 2B に分類)                                                                                      |  |
| (iv) 生殖細胞変異原性                                                           |  | データ不足で分類不可。                                                                                                                                             |  |
| (v) 発がん源性                                                               |  | データ不足で分類不可。                                                                                                                                             |  |
| (vi) 生殖毒性                                                               |  | 分類できない。                                                                                                                                                 |  |
| ④EDTA                                                                   |  |                                                                                                                                                         |  |
| (i) 急性毒性                                                                |  | 経口 ラット LD <sub>50</sub> >2000mg/Kg (EU-RAR 49 (2004))                                                                                                   |  |
| (ii) 皮膚腐食性・刺激性                                                          |  | ウサギのドレイズ試験で刺激性なしとの報告あり。                                                                                                                                 |  |
| (iii) 目刺激性                                                              |  | 眼刺激 (区分 2B に分類)                                                                                                                                         |  |
| (iv) 生殖細胞変異原性                                                           |  | データ不足で分類不可。                                                                                                                                             |  |
| (v) 発がん源性                                                               |  | データ不足で分類不可。                                                                                                                                             |  |
| (vi) 生殖毒性                                                               |  | 区分 2 に分類。                                                                                                                                               |  |
| 12. 環境影響情報                                                              |  |                                                                                                                                                         |  |
| (1) 製品の環境影響情報                                                           |  | 実験では確認していないが、GHS 混合物分類判定システム                                                                                                                            |  |
| 管理番号 SDS MW07001436                                                     |  | アニコム先進医療研究所株式会社                                                                                                                                         |  |
| (2) 成分の環境影響情報                                                           |  | (令和元年度版) にて危険性を推定した。                                                                                                                                    |  |
| ①エタノール                                                                  |  |                                                                                                                                                         |  |
| 生態毒性                                                                    |  | 魚類（ブルーギル）の 96 時間 LC50 > 100mg/L（SIDS, 2005）で区分外。                                                                                                        |  |
| ②塩化アンモニウム                                                               |  |                                                                                                                                                         |  |
| 生態毒性                                                                    |  | 魚類（ニジマス）での 96 時間 LC50 = 0.696mg/L、区分 1 に分類。                                                                                                             |  |
| ③アジ化ナトリウム                                                               |  |                                                                                                                                                         |  |
| 生態毒性                                                                    |  | 藻類での 96 時間 LC50 = 0.348 mg/L、区分 1 に分類。                                                                                                                  |  |
| ④EDTA                                                                   |  |                                                                                                                                                         |  |
| 生態毒性                                                                    |  | 魚類（ブルーギル）の 96 時間 LC50 = 41 mg/L（EU-RAR, 2005 他）から、区分 3 に分類。                                                                                             |  |
| 13. 廃棄上の注意                                                              |  |                                                                                                                                                         |  |
| (1) 残余廃棄物                                                               |  | 容器、機器装置を洗浄した排水等は、大量の水と一緒に流すか、法定廃棄物業者に委託すること。排水処理、焼却等により発生した廃棄物についても、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に従って処理を行うか、法定廃棄物業者に委託すること。                                        |  |
| (2) 汚染容器及び包装                                                            |  | 容器は洗浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行うこと。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。                                                                               |  |
| 14. 輸送上の注意                                                              |  |                                                                                                                                                         |  |
|                                                                         |  | 容器が破損しないよう、乱暴な取り扱いを避けること。運搬する場合には、飛散、漏れ、流出、又はしみ出る事を防ぐのに必要な措置を講じること。長時間にわたり高温にさらさないこと。                                                                   |  |
| 15. 適用法令（国内規制）                                                          |  |                                                                                                                                                         |  |
|                                                                         |  | 廃棄処分時に水質汚濁防止法に基づき処理すること。（それ以外の各法に抵触しない）                                                                                                                 |  |
| 16. 参考文献                                                                |  |                                                                                                                                                         |  |
| (1) 原料メーカー安全データシート参照                                                    |  |                                                                                                                                                         |  |
| (2) 毒物及び劇物取締法 MSDS 対象物質全データ（2001）                                       |  |                                                                                                                                                         |  |
| (3) 化学品安全管理データブック 化学工業日報社（2000）                                         |  |                                                                                                                                                         |  |
| (4) 発がん性物質の分類とその基準（第 3 版）(社) 日本化学物質安全情報センター                             |  |                                                                                                                                                         |  |
| 備考                                                                      |  |                                                                                                                                                         |  |
| (1) 記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関して、弊社はいかなる保証もいたしません。   |  |                                                                                                                                                         |  |
| (2) 関連法令の改訂や新しい知見に基づき、本安全データシートの内容は改訂されることがあります。                        |  |                                                                                                                                                         |  |
| (3) 本キットを使用される際には、出典等を良く検討されるか、試験によって確かめられることをお勧めいたします。                 |  |                                                                                                                                                         |  |
| (4) 記載事項は通常の取扱いを対象としたものであり、特別な取扱いをする場合には新たに用途・用法に適した安全対策を実施の上、お取扱い願います。 |  |                                                                                                                                                         |  |
| (5) 化学物質の人体への影響については個人差が有り影響は様でないので安全対策に心がけて下さい。                        |  |                                                                                                                                                         |  |